

第6回 ニューこまつ提言会議 報告（座長コメント）

日 時：平成22年1月15日

時 間：13時00分～15時00分

今回は、「長寿社会における高齢者対策のあり方について」をテーマとして、意見交換を行いました。

（メンバー9名全員出席）

わが国の人口構造の高齢化は急速かつ確実に進み、戦後のベビーブーム世代がすべて65歳に到達する平成27年（2015年）には、高齢化率は約26.9%となり、国民の4人に1人以上が65歳以上の高齢者になると予測されている。

小松市においても同様に高齢化率は年々上昇を続け、平成21年10月1日現在の22.6%から平成27年10月1日では26.4%になると推計している。超高齢化社会が到来することが見込まれているなか、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送られるように、高齢者施策をさらに推し進めていく必要がある。

委員からは、次の意見、提言がありました。

〔生きがい等について〕

- ・社会で何十年も勤められてきた人はお宝である、少子高齢化の中腕を奮って、人材育成に貢献していただきたい。
- ・いろいろな趣味を生きがいに行っている方が多い。公共の場所で利用できる場所があれば開放できれば良い。
- ・今後は文化・観光・スポーツ交流の時代である。今までの技能、経験を生かすことが大切、称号を与え認知すれば良いのでは。
- ・人に認められることは必要である。マスコミに積極的に取り上げ、世間に認められるように持っていくことが大切。
- ・毎日これをしなければいけないという、日課みたいなものを持つことにより元気でいられる。
- ・お年寄りが社会のお荷物にならずに、社会に貢献していく、そうすれば社会にも役立つし、本人にも役立つ。

〔地域について〕

- ・自分たちで、汗をかきながら町づくりをすることにより、経費もかからず、コミュニケーションも生まれる。
- ・町内会の役割と市の役割を旧態前ではなく、町内の体力に合わせ市と町内が協働して市民生活を支えていくべき。

- ・高齢者に身近な市民サービスを提供するために、農協の支所や郵便局などを活用すれば良いのでは。

〔施設等について〕

- ・老人施設と子供の施設がリンクしていて、子供たちの声が聞こえる場所的なものがあると良い。
- ・子供たちの学ぶ場所づくりとして、商店街の空き店舗やお寺を利用し、お年寄りの技能や伝統的な遊びを学べるようにすれば良い。

座長 竹村 信一